

令和4年度 全国学力・学習状況調査を終えて

令和4年度、第6学年児童を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果は、国語、算数科の平均正答率は、全国と比べて高く、理科の平均正答率は、全国と比べて低いことがわかりました。

【国語科】

・「思考力、判断力、表現力等」の観点：「読むこと」の平均正答率が全国よりも高く、毎日の読書タイムの完全実施や、読書貯金カードを活用した読書の推進等、意図的に取り組んでいることへの効果が伺えます。

・「知識及び理解」の観点：「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率は全国を下回っており、特に、「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」問題から、相手の読みやすさを念頭に、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して文章を書くことへの意識の醸成が十分できていないようです。今後は、日頃のノート指導を通して、ノートのマスや中心線を意識して、一画一画を丁寧に書くことに重点を置いた指導を進めていきます。

【算数科】

・「思考力、判断力、表現力等」の観点：平均正答率が全国よりも高い結果でした。特に、学習指導要領の領域である「図形」についての平均正答率は、全国と比べて著しく高いことがわかりました。これは、低学年において、学習の中で効果的に具体物を用いることにより、児童の視覚から図形の概念を理解させたり、中・高学年において、デジタル教科書やタブレット等の意図的な活用を行うことにより、具体化から抽象化へと意図的に学習を展開することを通して、図形の概念を構築していく学習指導が功を奏していることが考えられます。

・「データの活用」についての平均正答率は、全国と比べて低いことがわかりました。特に、「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる」問題と、「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる」問題においては、表やグラフにある数値とその意味を十分に把握せずに解答していることが考えられます。今後の学習指導を通して、問題文の意図を十分に理解した上で、提示されている表やグラフにある条件の意味や活用方法等を確実に見出す力を育てていきます。

【理科】

・『エネルギー』を柱とする領域』『粒子』を柱とする領域』『生命』を柱とする領域』についての平均正答率は、全国と比べて同等、もしくはそれを上回る値でした。

・『地球』を柱とする領域』の平均正答率は、全国と比べて低く、特に、「観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」問題、「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」問題、「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」問題の平均正答率が低い結果でした。理由としては、上記で述べた算数科と同様に、グラフから、そこに明記されている言葉や数値、変化している記録を示した線等の意味を十分に把握しないままに、解答していることが伺えます。調査結果を受けて、誤答の直しをする際に、学級担任が児童とともに、グラフからわかる情報を精査した上で問題を解かせると、多くの児童が正答を導き出すことができました。今後は、グラフに明記されている情報を十分に探し出し、それを解答するための手段として用いることの有用性について、繰り返しの指導をしていきます。

★ 令和4年度 全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料

国立教育政策研究所HP より (<https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>)